

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2009年 9月 52号



〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24
JICA地球ひろば気付
カンボジア教育支援基金 事務局
TEL&FAX 048-431-5669(連絡先竹口)
<http://www.keaf-japan.com>

郵便振替口座

00150-1-558318 カンボジア教育支援基金

2009年度活動報告(2008.9.-2009.8.)

喜ばれた「寄宿舎」とパソコン スタディーツアーは来春に持ち越し

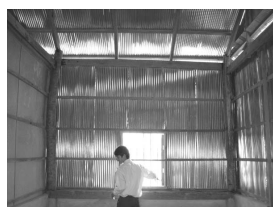
会長 金子敦郎

カンボジア教育支援基金の09年度活動は、できたこととできなかったことが相半ばでした。この経験のなかから今後の支援活動の方向を見つけていきたいと思います。10月25日(日)に第11回総会を早稲田奉仕園で開催します。会員および支援者の皆さん、多数出席して私どもを叱咤激励してください。

09年度は高校生への奨学金、教科書・文房具・スポーツ用具などの支援を拡充しました。10月からの新学年度奨学生を決める面接は6月に行いましたが、枠を5人分増やしたので大変喜ばれました。生徒たちに将来の希望を聞くと、先生がほとんどで少数が医者というのがこれまででした。今回は建築家、会計士、日本語・英語通訳という生徒が何人もいて、子供たちの世界も少しずつ広がっているなと感じました。

2つの新規プロジェクトにも取り組みました。

第一はプロモルプロム高校生徒のための**寄宿舎**建設支援。校庭の一角に5月に完成、10月新学期から遠距離通学の困難な生徒28人が入ります。屋根はトタン葺きですが、土台と床はしっかりしたコンクリートです。



第二はプロモルプロム中高校、バンティチャクライ中学とプラティアート中学への**パソコン支援**でした。プレイトープ中学は10年度回しにしました。KEAF-Japanの支援プログラムとしてはちょっと金額がはりました。単年度プログラムということと、07年度後半からそれまで活動の大部分を占めていた「友好学園」への支援が無くなったことがひとつの理由でまとまった額の繰越金が出たので、踏み切りました。



バンティチャクライ、
プラティアート中学
のPC担当の先生方と
購入時のOSインス
トール確認
(岡本事務局員)

カンボジア教育支援基金の英文名を「CEAF・TOKYO」から「KEAF-Japan」に改めたり、事務所を移転したりしたことから新しいリーフレットを作成、ホームページも刷新しました。大いに活用して私たちの活動をPRし、活動の基盤を広げたいと思っています。リーフレットはこの会報と一緒にお届けします。

残念だったのは、夏休み期に企画した現地スタディーツアーは参加希望者が催行人数に届かず、今年も実施できなかったことです。準備をし直して来春に再度募集をかけたいと計画しています。

もうひとつは、プロモルプロム中学・高校に派遣したボランティア日本語教師の鳥飼南希さんが体調を崩して5月に帰国(会報51号で報告)したあと、後任者が見つからずに空席になってしまったことです。学校や生徒はがっかりしています。ボランティア日本語教師を毎年欠かさず派遣することは大変難しいのが現実です。滞在期間は1年間にこだわらず、柔軟に扱うなどの工夫もしながら努力をつづけます。会員、支援者の皆さんも人材さがしにご協力ください。

【第11回総会のお知らせ】

総会を開催します。奮ってご参加ください。

日時：2009年10月25日(日) PM3時～5時

場所：早稲田奉仕園・キリスト教会館6F

ホクトルーム 電話 03-3205-5403

東京都新宿区西早稲田2-3-1

地下鉄東西線早稲田出口2より徒歩5分

地下鉄副都心線西早稲田より徒歩8分

JR高田馬場駅より徒歩15分

都バス：学02早大正門行西早稲田下車徒歩3分

報告者 事務局次長 児玉裕史

訪問者：金子会長・岡宮事務局員・児玉事務局員
通訳・ガイド：ソワンさん・ワンターさん

1. 日程：2009 年 6 月 16 日～21 日
2. 訪問先：プレイヴェン州プレアスダック郡
3. 目的：奨学生面接・教科書支援・現地調査
寄宿舍確認

4. 訪問校

4-1. プロモルプロム中・高校

奨学生面接 46 名。半分以上の生徒が継続生。

たいていの家庭が農家である。本人が兄弟の中で初めての高校生である子が多い。将来の夢では従来の医師や教師以外に、会社員(会計士)、設計士など新しい職業名がでてくるようになった。

寄宿舍完成

土台はコンクリート、柱は木で外壁はトタン
4 部屋(7×4 人)、一部屋 30 m² (7.5m×4m)
男子専用になる。

4-2. プレイトープ中学校

奨学生面接 5 名。

最も近い高校がプロルプロムのため、同校への進学希望が多い。

タッコー高校よりも進学希望者が多い理由

- ① 環境 (校舎がキレイ、プサトリアに近い)
- ② 先生が充実している：友好学園の先生がプロモルプロム校でも教えていることと関連があると思われる。
- ③ 奨学金がある

4-3. バンティーチャクライ中学校

奨学生面接 5 名

学校自体がプロモルプロム高校に近くて、自宅からプロモ校へ通えるため生徒の高校進学先は、プロモ校がほとんどである。

4-4. プラティアート中学校

奨学生面接 7 名

この学校はコンポントウロバイ高校へ通う生徒が多い。コンポントウロバイ高校から距離は遠いが、国道 1 号線を通っていけるため、実家から直接自転車で通える生徒が多い。

生徒と話す時間が多くとれた。英語で積極的に話しかけてくる生徒が数名いて、日本について、カンボジアについてどう思うか、尋ねてきた。

事務局員 岡宮喜雄

次年度の奨学生支援の面接のため 2 回目のカンボジア訪問をした。引き続き奨学金を受ける高校生たちは元気に通学しているだろうか、彼らの顔を覚えているだろうか・・・いろいろな思いを抱きながらの訪問となった。

雑踏する首都プノンペンを車で発って広々とした田園風景の中を 2 時間あまり走り、プロモルプロム高校に着くと生徒たちが笑顔で歓迎してくれた。面接をする高校生たちである。面接も 2 回目のせいか昨年より少しはゆとりができたと思う。彼らも和やかに時には日本語で応対してくれた。先生たちとも夕食をともにしながらの交流は大いに盛り上がった。



面接の後で、プラティアート中学(岡宮事務局員)

支援している中学校 3 校で奨学金がもらえたら高校進学を希望する中学生と面接をした。将来は教師、医師、通訳、弁護士、会社員、建築技師等多くは人に関わる仕事を希望していた。みんな素直で積極的なすがたに好感をもった。将来が大変楽しみである。入学先の高校にも協力を得ることになっている。



面接の後で、プレイトープ中学
(金子会長・児玉事務局次長・岡宮事務局員)

奨学生支援のほか不足する教科書支援もおこなっている。教科書を手にしたときの先生方の喜び様は忘れられない。



教科書を、プラティアート中学(金子会長左)

学校の建設もさることながら、現に不足する教科書、文房具、運動用具、遊具等先生方、子どもたちが直接必要とするものを支援することも大事なのではないだろうか。

車で移動する途中でもおそらく学校には行かず家の手伝いをしていると思われる子どもを見ると、ひとりでも多くの子どもたちが学校に通えるようになったら良いだろうと思う。はつらつとした明るい表情、人懐こさを見るとなおさらである。

支援している学校の先生方、生徒たちからこんなに期待され喜ばれるのかと思うと、たとえ僅かな支援でも共感するひとが多くなればなるほど喜びもまた大きくなるのではないだろうか。

石山記者が眠る元ゲリラ基地はカンボジア西部、タイ国境につながる原始林に覆われた山岳地帯の主峰クチョール山の山腹にあった。プノンペンから直線なら 120 キロだが、道路は延々と続く凸凹道。最後の 10 キロはバイクに乗ったり降りたり、いくつもの川を渡って数時間の旅だった。元ゲリラたちの案内でたどり着いたのは、原始林がふと途切れて空が現れた「空き地」。石山記者はそこに 6 人の戦没ゲリラとともに埋葬されていた。



クチョール山

クチョール山地方の住民は山岳民族で、ポル・ポト派の支配が強固だった。治安が安定し外部からの立ち入りができるようになったのはこの数年である。昨年 1 月の第 1 回調査には陽子夫人に長女美枝子さんが加わった。石山記者が消えたのは美枝子さんの誕生後まもなくだった。今回調査では美枝子さんに代わって健吉さんが参加した。健吉さんは父を継いで記者（NHK）になった。

陽子夫人与健吉さんが草むらの一角に缶ビールと清酒のビンを供え、線香をたいて手を合わせた。あのとき、このとき・・・いろんな映像が私の脳裏を駆け抜けていった。



クメール・ルージュの共同墓地

「忘れえぬ国、忘れえぬ人たち」(続)

石山記者はゲリラ共同墓地に埋葬 36 年後に遺族が現地を確認

会長 金子 敦郎

カンボジア戦争中の 1973 年に解放区取材に出たまま戻らなかった石山幸基記者（当時共同通信プノンペン支局長）は、病死してクメールルージュ・ゲリラ基地の共同墓地に埋葬されたとの信頼性の高い情報を得たのは 1981 年。それから 28 年、消息を絶ってから 36 年の今年 1 月、陽子夫人、息子の健吉さんとともに私たちはやっと、その墓地を確認することができた。

2009年6月奨学生面接・・・10月からコンポントゥラバイ高校1年生になります。

プラティアート中学校(7名)

No	写 真	名前	性別	5		個人情報保護のため非表示	男
		学年・組	成績			9A	2/21
		兄弟姉妹 (何番目)				5人中1番目	
		大学専攻希望				○	
		将来				医者 (老人や村人を助ける)	
		父母				農家	
		現住居・学校までの距離					
		好きな科目				クメール語、英語	
		塾での勉強科目				英語、数学	
		その他、希望など				自転車購入、文具	
1		個人情報保護のため非表示	女	6		個人情報保護のため非表示	男
		9B	1/37			9C	3/21
		6人中3番目				8人中8番目(1人は10年まで)	
		○				○	
		銀行員(貧しい人を助ける)				建築士 (国の発展のため)	
		農家				農家	
		高校まで10km40分				高校まで9km 1 h	
		化学、物理、英語				生物	
		朝1H、夜1Hの自習				英語、数学	
		奨学金は文具、塾に				奨学金は塾に	
2		個人情報保護のため非表示	女	7		個人情報保護のため非表示	男
		9B	3/37			9C	4/21
		6人中4番目				5人中5番目	
		○				○	
		医者 (貧しい人を助きたい)				会社員 (会計)	
		農家				農家	
		高校まで1時間				高校まで5km30分	
		生物、化学				英語、数学	
		英語、数学				英語、数学	
		奨学金は塾、文具に				奨学金は塾に	
3		個人情報保護のため非表示	女			プラティアート中学校舎	
		9B	6/37				
		6人中3番目(1人は10年生)					
		○					
		クメール語の教師					
		農家					
		コンボンまでは1h10km					
		クメール語、数学、歴史、地理					
		数学					
		歴史が好き、戦争、宗教に興味					
4		個人情報保護のため非表示	男			プレイトープ中学校舎	
		9C	1/37				
		6人中6番目 (上1人は高卒)					
		○					
		設計士					
		農家					
		コンボンまで9km40分					
		クメール語、数学、化学、物理					
		英語、数学					
		奨学金は教科書、文具に					

2009年6月奨学生面接・・・10月からプロモルプロム高校1年生になります。

プレートープ中学

バンティチャクライ中学

1		個人情報保護のため非表示 男 1 2人中1番目(妹) ○ 英語の通訳 農家(休みの日には手伝い) 進学後は小屋を作る 20km 英語(教科書を借りる) 生徒が少ないため塾がない プロモに進学予定	1		個人情報保護のため非表示 6/40 3人中2番目 ○ 会社員 農家 プロモ校まで9km 高校では数学が楽しみ 奨学金は塾、文具へ
2		個人情報保護のため非表示 男 3人中1番目(小5、小2) ○ 医者(田舎には医者がない) 農家 プロモに進学予定 生物 兄弟と遊んでる時が楽しい	2		個人情報保護のため非表示 男 17/40 5人兄弟の5番目 ○ 医者(家族を助きたい) 農家 プロモ校まで20分 生物、物理、化学 塾はときどき英語
3		個人情報保護のため非表示 男 10/60 7人中4番目(初めて高校進学) ○ 教師(弟や妹に教えたい) 農家 プロモに進学予定 物理と英語の勉強をしたい 進学後は小屋を建てて生活	3		個人情報保護のため非表示 2/40 5人兄弟の4番目 ○ 英語の通訳 農家 プロモまで8km, 20分 数学 バトミントンが好き
4		個人情報保護のため非表示 男 26/60 7人中4番目 ○ 教師(子どもたちのため) 農家 プロモに進学予定 高校での楽しみはサッカー 進学後は親戚の家へ	4		個人情報保護のため非表示 7/40 9人中9番目 ○ 医者(家族や村の人のために) 農家 プロモまで8km、30分 化学・物理 奨学金は文房具、塾に
5		個人情報保護のため非表示 男 7/60 ○ 医者(病気が多い) 高校では生物、化学、物理を勉強したい	5		個人情報保護のため非表示 男 11/40 6人中6番目 ○ 数学の教師(皆に教えたい) 高校の隣の友達の家の下宿 クメール語、数学 進学後はバレーボール、友達がたくさん出来るのが楽しみ

カンボジアでの日々 第4回 ～再会～

事務局次長 児玉裕史

里帰り、そして滞在の意味を見つける旅

僕は07年9月～08年7月までカンボジアのプレイヴェン州プレアスダック郡のプロモルプロモ校で日本語ボランティア教師をした。

KEAF や周りの方々のサポートもあり、今回の奨学生面接訪問に参加することが出来た。感謝したい。特に岡宮さんには早い時期から熱心に口説かれた。「オレは児玉君と行きたいし、児玉君も里帰りしなくちゃ」という岡宮さんの言葉で、僕は行く決心ができた。

そんなわけで、今回の訪問の個人的な目的は、里帰り（再会）と自分が滞在したその意味を見つけることであつた。

「こんにちは」で迎えられた

車が村に入り、はじめに向かったのは、学校だった。プロモルプロモ校。「神の集まる場所」という意味を持つ、僕の生まれた年に開校した学校。僕が約1年間過ごした学校。

時間は11時前。生徒や先生は午前の授業を終え、帰り始める頃だ。

学校に到着すると、校長先生と副校長になったポーン先生が僕に歩み寄ってくれた。校長と抱き合い、ポーン先生とも抱き合った。生徒や他の先生が「コダマ」と僕の名前を呼んだ。照れくささと喜びが交じり合った再会だった。

「コダマ」以外にも「こんにちは」とか「お元気ですか」という言葉が飛んだ。僕や鳥飼さんがやってきたことがそんな風に、今につながっている実感が湧いた。



出迎えの生徒たち

「再会」

食事後、僕の住んでいた元郡長さん（通称オム ―日本語のおじいちゃんの意味に近い）宅へ。僕の家

も、レストランも、この地域（プレアスダック郡）で一番大きい市場の中にある。家に行くと、いつもの柔らかい笑顔で僕を迎えてくれた。

お土産を渡し、世間話をする。今回の旅の目的は「再会」であつたが、残念ながら「再会」できなかった人もいる。オムの奥さんのオムスライ（日本語でおばあちゃんの意味に近い）が僕の帰国後、亡くなったのだ。僕の滞在中から、病気があることは聞いていたが元気だった。なによりも、屈託のない笑顔としっかり者のオムスライは、ことあるごとに僕を気にかけてくれ、生活についてのあれこれを教えてくれた。家にお客さんが来ると「うちの一番末の息子」と僕を紹介してくれていた。

オムスライが亡くなった。そう聞いたとき、まったく実感できなかった。



オムスライ



オム

しかし、こうしてカンボジアの村に帰ってくると、その現実がだんだんと認識させられる。オムスライのベッドは長く使われた跡がない。オムスライにお線香をあげた。それでも、まだどこかにいるんじゃないかと思えた。けれど、オムスライは家の中にもどこにも。

オムがとつとつと、オムスライの話しをしてくれた。涙をこらえるのがやっとだった。

オムの家の隣に住むオムの末娘には、2人目の子どもが生まれていた。オムに、オムスライにも新しい孫が生まれたのだ。

そんな風に、僕がいた時に比べ、少しずつ変化していた。住んでいた所以外に、村も変化を遂げていた。市場は改装され、以前のごちゃごちゃした寄り集まった市場から、様変わりを遂げようとしていた。

また、村にはベトナムから電気が入った。自宅へと導く作業は、自分でおこなう必要があるため、いくつかの家庭にしか引かれていないが、大きな変化である。

奨学生の面接

14時から面接の予定だった。僕らのグループが30分前に着くと、大半の生徒が待っていた。以前僕が

教えていた生徒がほとんどだった。近況を聞いたり、冗談を言いあったりしていた。「スレイネンちゃんは結婚して学校を辞めたの」なんて話も出た。熱心に勉強していたのに、残念だなあと考えた。そして、なによりもう会えないと思うと悲しくなった。

「また、日本語教えて下さい」とか「今回は授業しないの?」という言葉もかけてもらった。「もう、1年ここにいることはできないけれど、来年の3月には長く滞在するからそのときにね」と応えた。自分を待っていてくれる人がいる。それがすごく嬉しかった。

今年は、「こんにちは」、「ありがとう」というあいさつ言葉が聞かれた。「ありがと、こだま」という言葉には、僕に対する親しみが込められていた。

僕は授業中、「せんせい」と呼ばれていたが、それ以外の場所では「こだま」と呼ばれていた。それに対し、「ちゃんと先生って呼ばれるようにならないといけないよ」とか「先生って呼ばせなさい」という人もいた。だけど、僕は先生という存在でなく、「こだま」という一個人として生徒が接してくれていることを喜んでいて。

面接ではこんなこともあった。11年生のセンくんはサインをひらがなで書き、将来は日本語の通訳になりたいと言った。僕が来たときにはちょっと考えられなかった光景だった。そんなセンくんは、僕のロッカーに入っていた日本語カンボジア語の辞書をあげた。センくんのような生徒がもっと出てきたらいいと思う。日本人が行くことによって、新しい道を知り、生徒がそれを目指す。それは日本語の通訳になる以外でもいいと思う。



奨学生面接：プラティアート中学

お酒を飲んで話はつきず

その日の夜はポーン先生の家泊まり、夜中まで同僚の先生たちとお酒を飲んで、色々な話しをした。僕がいた頃の昔話、他の先生の近況、カンボジア国内の話…。話しは尽きなかった。

次の日(18日)の夜、その日の予定の終わりには、いつものレストランで、プロモの先生たちと party

をした。普段、夜の飲み会自体珍しいものなのだが、女の先生たちも来ていたことに驚いた。オム(元郡長さん)を誘うとオムも来てくれた。

総勢18人。滞在は3日目に向かえ、お酒も入り、僕のクメール語の感覚も戻ってきた。普段は真面目な校長先生はお酒が入ると、いつものように陽気になっていった。それは他の先生もかわらない。

20時にはお開きになり、僕らもオムや先生たちもお別れになった。もったいなかった。「また、来いよ」と言われた。「絶対来るよ」



親しくなった校長先生と

こうして僕の里帰りは終わった。たった2日間しか村にはいられなかった。子どもたちとも遊べなかった。それでも、こうして来られてよかった。

僕が滞在した意味はあった。はっきりとそう思った。

村の人が僕を笑顔で迎えてくれる。建物を建てたわけでもなく、寄付をしたわけでもない。1年、コーヒーやお酒を飲みながら話し、子どもと走り回っていた。

生徒や先生が僕を歓迎してくれる。学校では、サッカーをしたり、話をしたり、授業をしていた。ボランティア教師としていたことが上述したように、つながってきている。

そして、僕が日本にいる以上、日本から彼ら・彼女らにできることをやっていくしかないのだ。そんな決意が生まれた訪問となった。



縄跳び

ありがとうございました。(2009年6月12日～2009年9月10日)

年会費、寄付金、奨学金をお振込頂きました方々に心からお礼申し上げます。(敬称略)

個人情報保護のため非表示

【編集後記】

今回、会長以下3名で奨学生面接に出かけ、帰国後の報告で嬉しい便りを聞きました。「カンボジアの将来について」という題で、論文の全国的なコンクールがあり、支援先のプロモルプロム高校の生徒2名が、優秀賞を獲得しました。近隣の学校では、誰もいなかったそうです。

2人の生徒は、バイクを受賞記念に貰いました。残念ながら、1人は貰ってすぐに盗難に遭ってしまったそうです。できれば当選論文を入手し、掲載できればと思っています。

【教科書の支援状況】

各学校で不足している教科書の科目と冊数を提示してもらっています。学校が教科書を管理し、生徒に貸与する形を取っており、1年経つと返す事になっていますが、5%程度は破損、紛失などで消失しています。

教育省からの教科書の配布状況は、地域差が大きく不便な所ほど、届いていないのが実情で、教師用の指導教科書でも同様です。

個人的に購入することも、農村地区では全く無理で地方都市ですら殆ど入手できません。プノンペン的一般書店、マーケットでも必要なものの40-50%程度しか購入できません。

教育省の教科書印刷出版所にて、必要なものを買入していますが、順次印刷している状況で、全科目必要数が一時期に揃うわけではなく、繰り返し訪問して、順次購入し学校に届けています。

—事務局での現地調査から—

【ホームページを一新しました】

HPアドレス <http://www.keaf-japan.com>

学生事務局員が更新を担当してくれますので、今後は、活動案内などお知らせするようにします。

【ボランティアのお願い】

カンボジア教育支援基金の活動をお手伝いいただける方、ご連絡ください。

1. カンボジア通信の発行時に、編集作業、宛名シールの作成などをパソコンで行います。
2. イベント企画の好きな方。
3. ホームページの更新に関心のある方。
4. カンボジアの生徒の感想文など、翻訳の手伝いをしていただける方。(クメール語)

※ボランティア作業の後は、懇談が多く、結構楽しく、おしゃべりしています。是非お気軽に一報ください。

電話・FAX 048-431-5669

keafjapan@yahoo.co.jp 事務局 竹口素弘



どろんこ遊び